



本当に必要な支援のために

釜石市立唐丹中学校 3年 留畑 瑞穂

私がこの海外研修で学んだことは、「実際に様子を見て話を聞いてみないと、本当に必要な支援は分からない」ということである。

ベトナムへ行く前、私は道路の様子や交通ルールに興味があったので、現地ではそこを特に見ていこうと考えていた。訪れる前のベトナムのイメージは、「舗装されていない道路を大量のバイクが交通ルールを守らず走っている」というものだったが、実際に見たハノイの様子は、道路は舗装されていて、バイクだけでなく車も走っているところを見ることができた。

私は勝手に、ベトナムの人は交通ルールの改善という支援を望んでいると思っていた。しかし、実際にベトナムの道路の様子を見たり、ベトナムの JICA 職員の方と話をしてみたりして、正しいルールで生活しても、守らない人の方が多いので交通ルールを守ることの方がかえって危険だということが分かった。少しの人の意見しか聞いていないので、それがすべて正しいことだとは思わないが、少なくとも日本では知ることができない情報だと思った。

この研修を通じて、本当に必要な支援のためには、実際に現地の様子を見て現地の人と話聞くことが重要だと分かった。また、JICA 職員の方が言っていた、本人たちが続けられる支援こそ本当の支援だということも勉強になった。このような支援への取り組みの姿勢は、国内でも国外でも言えることだと思う。今後、私が支援活動に取り組むことになったらこのようなことに気を付けて取り組んでいきたい。